

第27回宇宙開発委員会（定例会議）

議事次第

- 1 日時 昭和50年12月17日(木)
午後2時～4時
- 2 場所 宇宙開発委員会会議室
- 3 議題 昭和50年度1～2月期人工衛星等の打上げ計画
について

説明者

東京大学宇宙航空研究所教授	森	大吉郎	
"	"	林	友直
宇宙開発事業団 副理事長	松	浦陽恵	
理事	高	田茂俊	
"	"	野	島正義

4 資料

- 委27-1 第26回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨
- 委27-2 SESノート K-16486
M-30-3号機の試験
- 委27-3 Nロケット2号機による電離層観測衛星打上げ
及び追跡管制計画書
(昭和51年102月期)
- 委27-4 Nロケット2号機による電離層観測衛星の打上げ
及び追跡管制について

委27-1

第26回宇宙開発委員会（定例会議）

議事要旨

- 1 日時 昭和50年12月10日(木)
午後2時～4時
- 2 場所 宇宙開発委員会会議室
- 3 議題 (1) Nロケット2号機の打上げに係る安全対策について（報告）
(2) その他
- 4 資料 委26-1 第25回宇宙開発委員会（臨時会議）議事要旨
委26-2 Nロケット2号機の打上げに係る安全対策について（報告）
- 5 出席者
宇宙開発委員会委員長代理 山 県 昌 夫
" 委員 網 島 毅
" " 八 藤 東 禮
" " 齋 藤 成 文
説明者
安全部会第二分科会長 山 内 正 男
関係省庁職員等
科学技術庁研究調整局宇宙開発参事官 園 山 重 道
気象庁総務部長 宇 都 宮 寛
(代理：高谷)

郵政省電波監理局審議官

市 川 澄 夫

(代理：渡)

事務局

科学技術庁研究調整局宇宙企画課長

上 島 史 郎

宇宙開発課長

今 村 宏 他

6 議事要旨

(1) 前回議事要旨について

第25回宇宙開発委員会（臨時会議）議事要旨が確認された。

(2) Nロケット2号機の打上げに係る安全対策について（報告）

網島毅安全部会長から資料委26-2に基づいて説明が行われ、さらに山内正男安全部会第二分科会長から補足説明が行われた。

そして以下の質疑応答が行われたのち報告が了解された。

八藤：資料委26-2の6頁目の②について、「ロケットの追尾又は作動状態の監視が不可能」とは具体的にどのような場合か。

山内：テレメータの受信が不能になった場合等をいう。

山県：領域管轄権の及ぶ範囲とはどこまでか。

山内：領土及び領海を指し、信託委任統治領も含む。なお、宇宙開発事業団では領海を沿岸から12カイリまでとし、落下限界線は余裕をみて、海岸線から30kmにひいている。

網島：エンジンのジンバリングによるドツグレッグはNロケット1号機の打上げの際にも行つたのか。

山内：Nロケット1号機においては、ジンバリングによるドッグ
レッグはかけなかつた。ただし、計画した飛行経路をロケッ
トが飛行するようジンバリングによる微調整は行っている。

山県：「領空」とは高度何kmまでを指すかは明確に定義されて
いないようだが、外国の領土の上空をロケットが飛行しても
問題はないのか。

網島：ロケットが領空侵犯すれば、打ち落とされても損害賠償の
請求はできないのか。

山県：ロケットに対する領空として何か国際的な取り決めがある
かどうか事務局で調べておいてもらいたい。

(3) その他

宇宙開発年報作成の進捗状況について

事務局から報告が行われ、年報の作成にあたっては写真等を
多く入れてできるだけ一般読者にわかりやすいようにするこ
ととされた。